

2011 年度「教育制度論」総括

学校教育(教育学)

山本久雄

1. 授業の概要

「教育制度論」はいわゆる「教職科目 A」であり、教員免許状取得のための必修科目である。シラバス上、目的は「すぐれた教員として必須の力量を身につけるため、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項についての基礎理論を理解し、改革の動向を主体的に把握することができる。」であり、到達目標は「(1) 教育の社会的、制度的又は経営的な事項についての基礎知識を習得し、それらに関する基礎概念を正確に説明できる。(2) 今日の教育改革の動向を自ら正確に把握し、それらの意義・効果・問題点を主体的に考え、それを分かりやすく論述・表現できる。」である。従って、学部のディプロマ・ポリシー(以下、DP)のうち主として「1.教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)」と「2.教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)」に貢献するはずのものである。

受講学生は、142名、学校教育教員養成課程及び特別支援教育教員養成課程の1回生向けに開講したものである。

内容は、「教室の外で」の語に象徴されるように、教室内で教師-生徒間で安定的に指導-学習が行われるための制度上のさまざまな配慮事項であり、教員として職業活動に従事する上で不可欠な知識である。毎回、教授内容を簡潔にまとめ、資料(法令条文、新聞記事、統計資料)、発展学習のための情報(書名、URL)を盛り込んだプリントを配布し、それに沿って講義形式ですすめた。そして、例年通り、毎回の授業の最後に小紙片にまとめを記してもらった。

今年度は、授業内容の理解をより確かなものとすべく、特にプリントの充実に努め

た。即ち、内容の精選・整理、見出し番号の見直し・整理、脚注の活用による重要度の階層化の明確化、プリント内参照ページの表示による内容の一貫性の明示、関連データ・記事の更新などに努めた。

2. アンケート結果

(1) 授業者独自のアンケート

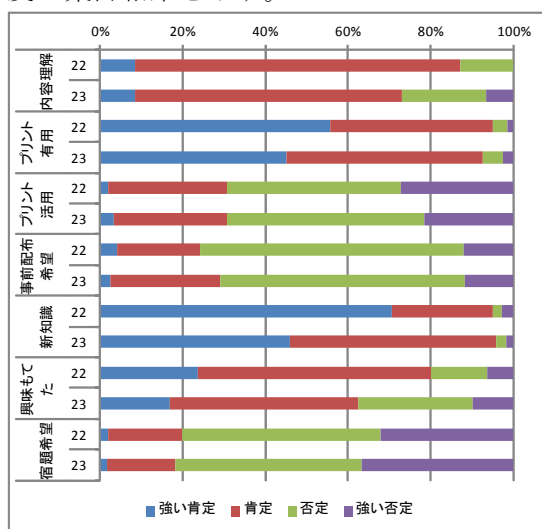
第14回目の授業でアンケート調査を実施した。昨年度と同じ、以下の質問項目について「強い肯定」「肯定」「否定」「強い否定」のうち一つを選んでマークしてもらった。むろん、無記名である。

- 1 この授業の目的は、教室での指導・学習が行われるための「教室の外」での配慮を理解する、ということだったのですが、あなたは総じて授業内容を把握できましたか。
- 2 この授業ではプリントを配布しましたが、このプリントは「教育制度論」の学習に役立ちましたか。
- 3 あなたは授業時間外にそのプリントを読む、挙げられているWEBページにアクセスする、などプリントを学習に活用しましたか(直接の試験対策は除く)。
- 4 プリントは1週間前に配布した方がよいと思いますか。
- 5 この授業で新しい知識は得られましたか。
- 6 この授業の内容には興味を持ってましたか。
- 7 あなたは、教員になりたいですか。
- 8 授業外学習を促進するため、毎回、宿題を出した方がよいと思いますか。
- 9 あなたの食事、睡眠、生活リズムはいい状態にありますか。

このうち、1, 5は授業の主目的としての知識・理解を問うもの、2は充実に努めたプリントの評価・活用に関するもの、3, 4, 6, 8は学習意欲の喚起に関するもの、そして7, 10はこれらの背後にあって学習の成否を規定する要因にかかわるものである。

結果は、総じて昨年と同様の傾向を示す

が、そのスコアは、昨年のそれを下まわるものであった。以下に平成 22 年度と 23 年度の集計結果を示す。



ここから、内容の理解、プリントの有用性、新知識得られた、については総じて高いスコアを得られたが、内容に興味もてた、を含め、23 年度のスコアは低下している。学習意欲を示す、授業外でのプリントの活用、プリントの事前配布希望、宿題の希望については低いままであった。

また、この回答の、いわば内部構造を探るため、各質問への回答の間の相関を探ってみた（相関係数を算出）。

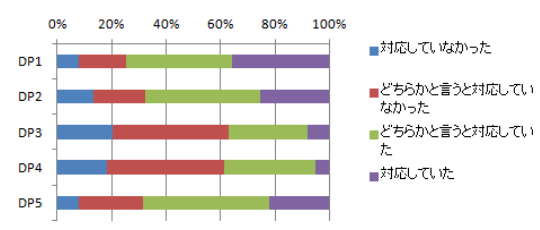
1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9
0.44	0.26	0.20	0.42	0.37	0.15	0.11	0.08
2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	
0.23	0.17	0.66	0.44	0.13	0.16	0.05	
3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9		
0.08	0.17	0.28	0.06	0.42	0.02		
4-5	4-6	4-7	4-8	4-9			
0.17	0.17	0.01	0.17	-0.23			
5-6	5-7	5-8	5-9				
0.50	0.38	0.16	0.003				
6-7	6-8	6-9					
0.37	0.40	0.05					
7-8	7-9						
0.18	0.01						
8-9							
0.08							

ここから明らかなのは、①正の相関があるグループはおおよそ「授業内容理解」・「プリント有用」・「事前配布希望」・「新知識得られた」・「内容に興味もてた」で認められること、②「教員志望」は「新知識得られた」と「興味もてた」とやや相関

があるものの他とは殆ど相関はなく、その志望が学習の成果、意欲、行動に必ずしも結びついていないことである。なお、③負の相関があるのは「事前配布希望」と「生活リズム」である。

(2) DP のアンケート

アンケートは受講学生が所属する課程の DP との対応関係を問うものである。授業の第 14 回目で実施した。その結果は以下である。



授業と DP1（知識・理解）、DP2（思考・判断）との対応関係については、総じて授業者の意図通りであるが、少なからぬ受講者がそれには対応していなかったとするのはいかなる事情からか。毎度のことながら、授業者の意図と学生の受け止め方の差異に戸惑う。とりわけ、DP5 は、使命感、責任感、教育的愛情、対人関係力などの項目であるが、授業の何がこれらに対応していたのか、これがいわゆる「隠れたカリキュラムの顕在化」というものか。

3. 総括

今年度の評価結果は、前年度に比べてやや劣るものであった。これは、さらなる改善努力をせよ、とのメッセージと受け止めることができる。

スコアを改善するには、まず、アクティブラーニングの要素を取り入れることが必要であろう。いくら内容が整理されていても、これなしでは学生の参加意識は高まらず、スコアの改善は難しい。次に、双方向性をもっと高めることである。小紙片には長い時間をかけて論究すべきこと、他の学生の意見を聴いてみたいことがしばしば書かれていた。これらを丁寧に取り上げ、対応することが授業の質を高めるための、最初の手立てであろう。いずれもそのために時間をかけること、教授内容のさらなる精選が必要である。

